

たばこの健康被害軽減低減をめぐる世界の状況 (GSTHR)



たばこから嗅ぎたばこ、そしてニコチンパウチ
に至る変遷:ユニークなアイスランド流たば
こハームリダクションモデルとは

Oliver Porritt

2025年
11月

その他の出版物については、[GSTHR.ORG](https://www.gsthr.org) にアクセスしてください



[gsthr.org](https://www.gsthr.org)



[@globalstatethr](https://twitter.com/globalstatethr)



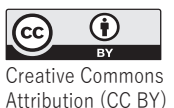
[@gsthr](https://www.facebook.com/gsthr)



[@gsthr](https://www.youtube.com/gsthr)



[@gsthr.org](https://www.instagram.com/gsthr)



Creative Commons
Attribution (CC BY)

はじめに

過去数十年間にわたって、北欧諸国では喫煙率が劇的に低下している。北欧諸国は欧州で先導的な役割を果たし、たばこハームリダクションが紙巻きたばこの使用量を急減させる可能性を示唆している。スウェーデンやノルウェーでは、禁煙を目指す人々にとってスヌースが一層の人気を集める一方、アイスランドでは安全なニコチン製品に移行している。本資料では、その台頭の変遷を紐解いていく。



アイスランドにおけるたばこ使用の歴史とは？

多くの欧州諸国と同様に、アイスランドにたばこがもたらされたのは1600年代で、¹ 紙巻きたばこは20世紀初頭から普及した。鼻から吸う嗅ぎたばこであるスナッフは、アイスランドでは経口摂取され、² 少なくとも1940年代から販売されて、³ 近年では電子たばこやニコチンパウチも市場に出回っている。加熱式たばこも販売されているが、スヌースは違法となっている。

たばこ使用によって、どのような影響がもたらされるか？

アイスランドでは少なくとも1980年代以降、喫煙率は着実に減少しているものの、2019年には全死亡者の17%が喫煙に関連していた。⁴ 他の調査では、2021年のアイスランドの全死亡者の11.3%が喫煙によるもの（男性13.5%、女性9.2%）であることが明らかとなった。⁵ 喫煙とたばこ使用がアイスランドにもたらす経済損失は、毎年330億アイスランドクローナ（約2億400万ポンド、または2億6900万ドル）以上と推定されている。⁶

アイスランドでは少なくとも1980年代以降、喫煙率は着実に減少しているものの、2019年には全死亡者の17%が喫煙に関連していた。

アイスランドでは、たばこ使用の問題に対処するためにどのような取り組みが行われてきたか？

アイスランドは、1960年代からたばこ規制法の整備において世界を先導してきた。1969年には、世界で2番目のたばこ箱に健康警告ラベルの表示を義務付けた国となった。⁷ 1971年には、マスメディア、映画館および屋外におけるたばこ広告を禁止した最初の国となった。⁸ また、1985年には、世界で初めてグラフィックによる健康警告ラベルを導入した国となり、⁹ 2001年には、たばこおよびたばこ商標が販売時点で消費者の視野に入ることを禁止した最初の国でもある。¹⁰

その他の対策としては、喫煙の健康リスクに関する国民の意識を高めるための全国キャンペーンの一環として、1979年に初めて実施された禁煙デーが挙げられる。政府は、1984年に職場での喫煙を禁止し、1996年には18歳未満

アイスランドは、1985年にグラフィックによる健康警告ラベルを導入した最初の国であり、その後の2001年には、販売時点でたばこやたばこの商標が消費者の視野に入ることを禁止した最初の国となった。

へのたばこの販売を違法とし、2007年には公共での喫煙を全面的に禁止した。¹¹ アイスランドはまた、2004年に世界保健機関（WHO）のたばこ規制枠組条約を批准した最初の国の一つでもある。¹²

アイスランドは1970年代以降、喫煙率の低下を目指して、さまざまな取り組みに投資してきた。1972年には、たばこ製品の警告ラベルを廃止し、全国のたばこ総売上高の0.2%に相当する特定たばこ税を導入した。¹³ この警告ラベルの対象と考えられていたアイスランドの若者層に届いていないと考えられたため、当税によって、喫煙が健康に及ぼす有害な影響について、子供や学生らに直接教育を実施するとともに、メディアによる広告キャンペーンにも充てられた。その後2001年には、当税を増額する法律が可決され、政府はたばこ総売上高の少なくとも0.9%をたばこ規制に充てることを義務付けた。これにより、アイスランドは欧州で一人当たりのたばこ規制支出が最も高い国となった。¹⁴ その結果、アイスランドは2016年に最も包括的なたばこ規制政策を有する欧州諸国の中で、第3位にランクインしたが、¹⁵ 2021年には欧州たばこ対策評価法（European Tobacco Control Scale）で第8位に後退した。¹⁶

アイスランドの薬物使用一次予防モデルは、たばこ使用に対する意識の変化に貢献してきた。1990年代に開始された同モデルは、「地域社会の関与、家族や学校の関与、そして青年の向社会的な前向きな育成を通じた協力」に基づき、薬物使用予防に集団的に取り組むものである。¹⁷ その導入以来、同モデルは「アイスランドの若者の間で、喫煙やたばこ使用は有害であり、いかなる犠牲を払ってでも避けるべきであるといった一貫した社会規範」の形成に貢献した。¹⁸

喫煙率は、時間の経過とともにどのように変化し、公衆衛生上でどのような影響があったか？

アイスランド保健局が、1989年以降に実施している年次調査によると、喫煙率は過去35年間で着実に低下している。1989年には、18歳から69歳までの成人の34.2%が毎日喫煙していた。¹⁹ 2000年には25%にまで低下した。2015年にはさらに11.5%に低下し、2024年に実施された最新調査では、アイスランドの18歳から69歳までの成人のうち、毎日喫煙する割合はわずか5.6%だった。アイスランドはもともと禁煙国となる見込みであり、成人の1日あたりの喫煙率が5%以下になる国となる。

喫煙の減少は、公衆衛生上の大きな成果と結びついている。1995年から2015年の間に、アイスランドでは喫煙による死亡者数が3分の1ほど減少したと推定されている。²⁰ また、ある研究によると、1981年から2006年の間に、25歳から74歳までの成人の冠動脈疾患による死亡率は80%減少しており、この減少の22%は喫煙率の低下によるものだった。²¹

近年では、喫煙に関連した他の疾患も同様に減少している。世界疾病負担データベースのデータによると、男女合わせて呼吸器系肺がんによる死亡

アイスランドは、欧州で一人当たりのたばこ規制支出が最も高く、2016年には最も包括的なたばこ規制政策を有する欧州諸国の中で第3位にランクされた。

アイスランドはもともと禁煙国となる見込みであり、成人の1日あたりの喫煙率が5%以下になる国となる。

1995年から2015年の間に、アイスランドでの喫煙による死亡者数は3分の1ほど減少したと推定されている。

率は、2010年の人口10万人あたりで33人強から、2020年には10万人あたりで26人強に減少している。²² しかしながら、さらに重要な点は、男性の呼吸器系肺がんによる死亡率に限れば、1980年代後半の人口10万人あたりで40人強から、2020年には10万人あたりで22人強へと、ほぼ半減していることである。アイスランドの男性のCOPDによる死亡率も同様に、1986年の人口10万人あたりで25人強から、2020年には10万人あたりで14人強に減少している。

最も人気のある代替ニコチン製品は何か？また、どれほどの人々が使用しているのか？

スヌースは、同じ北欧諸国であるノルウェーとスウェーデンでは喫煙者数を減らす上で重要な役割を果たしてきたが、この製品はアイスランドでは禁止されている。アイスランドは欧州連合（EU）に加盟していないが、欧州経済領域（EEA）には加盟しており、EUのたばこ製品指令に基づく特定措置を国内法に取り入れ、スヌース禁止も含まれている。

ごく最近まで、アイスランドで最も広く使用されていた経口ニコチン製品は、嗅ぎたばこだった。²³ この製品は、本来は鼻から吸うものだが、多くのアイスランド人は経口摂取している。嗅ぎたばこは、2010年代に注目を集め、2014年7月の報告によると、その使用量は2013年の同時期と比較して、過去6か月間に36%増加した。²⁴ しかしながら、わずか数年後に嗅ぎたばこの販売量は2019年の46トンから2022年に12.6トンへと減少し、²⁵ その主要因は、ニコチンパウチの人気の高まりであると考えられている。嗅ぎたばこの1日あたりの使用量は、2020年の成人の5%から、2023年に1.2%に減少した。²⁶

それとは対照的に、2024年にはアイスランドの18歳以上の成人のほぼ12%がニコチンパウチを毎日使用しており、2021年の9%から増加している。²⁷ これは、ニコチンパウチが現在、アイスランドで最も人気のあるニコチン製品であり、たばこに比べて2倍以上の人々が使用していることを意味する。2024年には、18歳以上の男性の16.3%がニコチンパウチを毎日使用したのに対し、女性の割合は6.8%だった。また18～34歳の年齢層では、男性の32%と女性の21%が毎日使用していた。2024年のデータでは、55歳以上を除くすべての年齢層で、ニコチンパウチの毎日の使用量が増加していることが示された。ニコチンベイプ（電子たばこ）の使用も、過去10年間で増加しており、2016年には18歳以上の2.8%が使用していたが、2024年には5%にまで増加している。²⁸



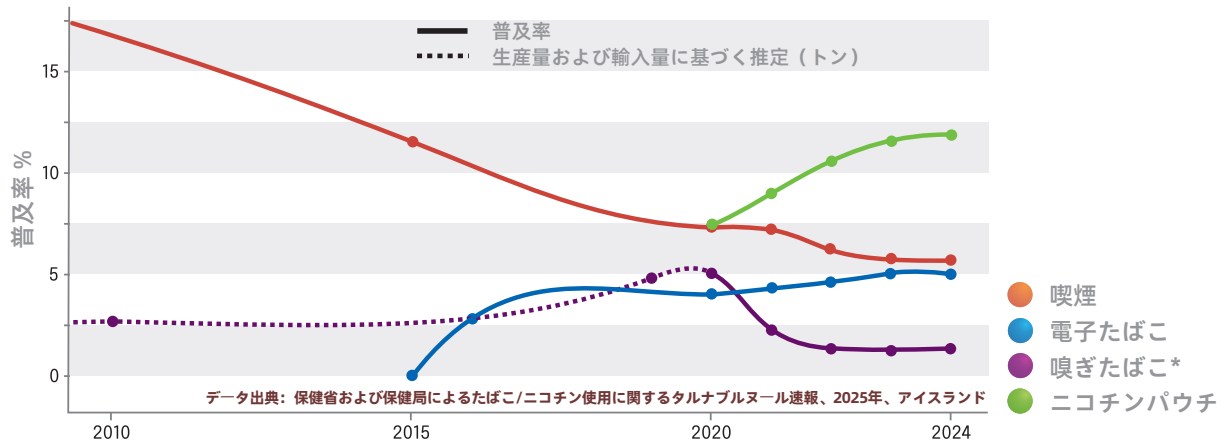
ニコチンパウチは現在アイスランドで最も人気のあるニコチン製品であり、たばこに比べて2倍以上の人々が使用している。



図1.



アイスランドにおけるたばこおよびその他のニコチン製品の日常使用



たばこやより安全なニコチン製品はどのように規制され、課税されるのか？

紙巻きたばこと嗅ぎたばこは、たばこ規制法によって規制されているが、ニコチンパウチと電子たばこはニコチン製品、電子たばこ、電子たばこ用リフィルに関する法律の対象となっており、²⁹ニコチンパウチは、若者による使用の増加への懸念から、2022年に同法に追加された。ニコチンパウチについては、広告の禁止や18歳までの年齢制限、および子供や若者がいる場所での使用禁止が定められている。この法律では、ニコチンパウチへのフレーバーの添加も禁止されているが、未だ施行はされていない。

ニコチン入り電子たばこの購入年齢も18歳からで、製品には健康に関する警告の表示が義務付けられている。パッケージはシンプルなものである必要はないが、未成年者の好みに合わないものも認められている。フレーバーは規制されていない。電子たばこの広告や宣伝は原則として禁止されているが、電子たばこおよび関連製品のみを販売する特別な小売店では、製品の展示が許可されている。子供や若者向けの活動が行われる場所では、電子たばこ使用は許可されていない。当資料の冒頭で述べたように、アイスランドでは1996年に18歳未満へのたばこの販売が違法となり、2007年には公共での喫煙が全面的に禁止された。

課税に関しては、2025年初頭から、たばこ1箱の20本あたりで758.95アイスランドクローナ（約4.60ポンドまたは6.20ドル）が課税対象となった。³⁰ 参考までに、マルボロ20本入りのたばこ1箱の平均価格は1,650アイスランドクローナ（約10.50ポンドまたは13.50ドル）である。³¹

アイスランドは、これまでにニコチン含有量に制限を設けている唯一の北欧国である。

2025年初頭より、ニコチンパウチはニコチン含有量に応じて課税対象となった。ニコチン含有量の低い製品では、1gあたり8アイスランドクローナ（0.05ポンドまたは0.07ドル）、ニコチン含有量が最も高い製品（1gあたり16.1~20mg）では1gあたり20アイスランドクローナ（0.12ポンドまたは0.16ドル）となる。³² また、アイスランドは北欧諸国の中で唯一、パウチに含まれるニコチン含有量に制限を設けており、製品1gあたりで20mgのニコチン含有量となっている。³³

12mg以下のニコチンを含むE-リキッドは、1mmリットルあたり40アイスランドクローナ（約0.25ポンドまたは0.33ドル）が課税され、12mgを超えるニコチンを含むE-リキッドは、1mmリットルあたり60アイスランドクローナ（0.36ポンドまたは0.50ドル）が課税される。³⁴

アイスランドでは、ニコチンパウチを入手しやすくなっているが、嗅ぎたばこを犠牲にしてニコチンパウチが最近増加している理由の一つは、ニコチンパウチと嗅ぎたばこが異なる税率の対象となっているためだと考えらえる。³⁵ この違いにより、ニコチンパウチは1gあたり平均40アイスランドクローナ（約0.25ポンドまたは0.33ドル）で、嗅ぎたばこが1gあたり80アイスランドクローナ（約0.50ポンドまたは0.65ドル）であるのに対して、大幅に安価となっている。³⁶

重要なポイントと将来展望

アイスランドは、早期にたばこ規制を導入し、禁煙教育に長期にわたって投資してきたこともあり、成人の喫煙率が世界で最も低い国の一つとなっている。スウェーデンやノルウェーでスヌースが成功したように、アイスランド人が禁煙に切り替えた際に最も積極的に受け入れたのは、安全な経口ニコチン製品である。アイスランド人は、鼻からではなく口から摂取する嗅ぎたばこを使い始め、その後に安全な代替品であるニコチンパウチや電子たばこの利用が可能になると、こうした製品は急速に普及した。現在、ニコチンパウチを使用する人は紙巻きたばこの2倍で、電子たばこを使用する人は紙巻きたばこを吸う人とほぼ同数である。こうした変遷を辿るにはさらなる調査が必要だが、多くのアイスランド人が喫煙から嗅ぎたばこへ、そして嗅ぎたばこからニコチンパウチへと切り替え、そのたびにリスクの連続体に沿って、より危険なニコチン製品からより害の少ないニコチン製品へと移行している。



課税水準の違いにより、ニコチンパウチは嗅ぎたばこよりも大幅に安価な選択肢となっている。

アイスランドの喫煙率の低さは、安全なニコチン製品が利用可能で、入手しやすく、手頃な価格で、適切かつ受け入れられる場合に達成できることを示唆している。

アイスランド政府は、より有害な代替品よりも、安全なニコチン製品の使用を促進する水準で、これらの製品の課税を維持し続けることが重要である。

これは、安全なニコチン製品が利用可能で、入手しやすく、手頃な価格で、適切かつ受け入れられる場合に達成できることを示唆している。しかしながら、ニコチンパウチを使用する若者の人数に関する懸念により、その増加は鈍化しそうだ。たばこには、全ての安全なニコチン製品よりも大幅に高い税金が課せられているが、ニコチンパウチに含まれるニコチン水準に応じて課税するという直近の変更は、一定の効果を上げているようだ。アイスランド保健局は、モニタリングの初期結果によると、ニコチンパウチ使用は2025年の第1四半期に実際に減少したことが示されているとしている。³⁷ ニコチンパウチ増加は、嗅ぎたばこに比べて比較的手頃な価格であったことがカギとなり、アイスランド政府は、より有害な代替品よりも、安全なニコチン製品の使用を促進する水準で、これらの製品の課税を維持し続けることが重要である。

References

- Lucas, G., & Jónsson, J. (2024). *Smoke, Sniff, Chew. Tobacco Consumption in Iceland During the Seventeenth-Nineteenth Centuries* (pp. 141–155). https://doi.org/10.1007/978-3-031-71257-9_6.
- Júliússon, Þ. S. (2017, 8月 1). *ÁTVR greinir ekki á milli munntóbaks og neftóbaks*. Kjarninn. <https://kjarninn.is/skyring/2017-07-31-atvr-greinir-ekki-milli-munntobaks-og-neftobaks/>.
- Icelandic Snuff Sales Hurt By Pouches. (2024, 5月 24). *Tobacco Reporter*. <https://tobaccoreporter.com/2024/05/24/icelandic-snuff-sales-hurt-by-pouches/>.
- Iceland: Country Health Profile 2023*. (2023). [Country profile]. European Observatory on Health Systems and Policies. <https://eurohealthobservatory.who.int/publications/m/iceland-country-health-profile-2023>.
- Iceland. (日付なし-a). *Tobacco Atlas*. 読み込み 2025年9月9日, から <https://tobaccoatlas.org/factsheets/iceland/>.
- 'Iceland', 日付なし-a.
- Hiilamo, H., Crosbie, E., & Glantz, S. A. (2014). The evolution of health warning labels on cigarette packs: The role of precedents, and tobacco industry strategies to block diffusion. *Tobacco Control*, 23(1), 10.1136/tobaccocontrol-2012-050541. <https://doi.org/10.1136/tobaccocontrol-2012-050541>.
- Ltd, B. P. G. (2007). Iceland: A pioneer's saga. *Tobacco Control*, 16(6), 364–364. <https://tobaccocontrol.bmj.com/content/16/6/364.1>
- Hiilamo, Crosbie, & Glantz, 2014.
- Scheffels, J., & Lavik, R. (2013). Out of sight, out of mind? Removal of point-of-sale tobacco displays in Norway. *Tobacco Control*, 22(e1), e37–e42. <https://doi.org/10.1136/tobaccocontrol-2011-050341>.
- Andersen, K. (2013). *Country report Iceland—December 2013*. European Society of Cardiology (EACPR). <https://www.escardio.org/static-file/Escardio/Subspecialty/EACPR/iceland-country-report.pdf>.
- Iceland. (日付なし-b). *Health Promotion Fund Resource Hub*. 読み込み 2025年9月9日, から <https://hpfhub.info/using-health-promotion-funding/what-is-the-impact-of-a-dedicated-fund/iceland/>.
- 'Iceland', 日付なし-b.
- OECD, European Observatory on Health Systems and Policies, & European Commission. (2019). *Iceland: Country Health Profile 2019 – State of Health in the EU*. OECD Publishing / European Observatory on Health Systems and Policies. https://health.ec.europa.eu/system/files/2019-11/2019_chp_is_english_0.pdf.
- Joossens, L., & Raw, M. (2017). *The tobacco control scale 2016 in Europe*. [Report]. Association of European Cancer Leagues. <https://www.drugsandalcohol.ie/28938/>.
- Results 2021—Tobacco Control Scale*. (2022). <https://tobaccocontrolscale.org/results-2021/>.
- Meyers, C. C. A., Mann, M. J., Thorisdottir, I. E., Ros Garcia, P., Sigfusson, J., Sigfusdottir, I. D., & Kristjánsson, A. L. (2023). Preliminary impact of the adoption of the Icelandic Prevention Model in Tarragona City, 2015–2019: A repeated cross-sectional study. *Frontiers in Public Health*, 11, 1117857. <https://doi.org/10.3389/fpubh.2023.1117857>.
- Raitasalo, K., Bye, E. K., Pisinger, C., Scheffels, J., Tokle, R., Kinnunen, J. M., Ollila, H., & Rimpelä, A. (2022). Single, Dual, and Triple Use of Cigarettes, e-Cigarettes, and Snus among Adolescents in the Nordic Countries. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19(2), 683. <https://doi.org/10.3390/ijerph19020683>.
- Tobacco Use—Statistics*. (n.d.). Ísland.is. 読み込み 2025年9月9日, から <https://island.is/en/tobaksnotkun-tolur>.
- 'Iceland', 日付なし-b.
- Aspelund, T., Gudnason, V., Magnusdottir, B. T., Andersen, K., Sigurdsson, G., Thorsson, B., Steingrimsdottir, L., Critchley, J., Bennett, K., O'Flaherty, M., & Capewell, S. (2010). Analysing the large decline in coronary heart disease mortality in the Icelandic population aged 25–74 between the years 1981 and 2006. *PloS One*, 5(11), e13957. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0013957>.
- <https://vizhub.healthdata.org/gbd-results>. (日付なし). Institute for Health Metrics and Evaluation. 読み込み 2025年9月9日, から <https://vizhub.healthdata.org/gbd-results>.
- Embætti landlæknis, Viðar Jensson, & Sveinbjörn Kristjánsson. (2025). *Talnabrunnur tbl4—Notkun tóbaks og nikótíns árið 2024*. Embætti landlæknis. https://assets.ctfassets.net/8k0h54kbe6bj/LxD0d1JdNAirazkZP0uON/376357c56f09d1a49921353f99bbf174/Talnabrunnur_tbl4_2025.pdf.
- grapevine.is. (2014, 7月 11). From Iceland—Snuff Tobacco Sales Rise. *The Reykjavik Grapevine*. <https://grapevine.is/news/2014/07/11/snuff-tobacco-sales-rise/>.
- Embætti landlæknis. (2023). *Talnabrunnur – Fréttabréf landlæknis um heilbrigðisupplýsingar (febrúar 2023)*. Embætti landlæknis. https://assets.ctfassets.net/8k0h54kbe6bj/1a2qWEi3eA9sBF4SYuXPbK/370008b44aabdda735fe6b311cd591a7/Talnabrunnur_februar_2023.pdf.
- Hrólfsson, R. J. (2024, 2月11). *Einn af hverjum þremur ungum körlum notar nikótínþúða daglega—RÚV.is*. RÚV. <https://www.ruv.is/frettir/innlent/404763>.
- Embætti landlæknis, Viðar Jensson, & Sveinbjörn Kristjánsson, 2025.
- Embætti landlæknis, Viðar Jensson, & Sveinbjörn Kristjánsson, 2025.
- Regulations across the nordic and baltic countries—Use of nicotine products among youth in the nordic and baltic countries*. (日付なし). Nordic Welfare Center. 読み込み 2025年9月9日, から https://nordicwelfare.org/pub/Use_of_nicotine_products_among_youth_in_the_Nordic_and_Baltic_countries_-_An_overview/regulations-across-the-nordic-and-baltic-countries.html.
- Regulations across the nordic and baltic countries—Use of nicotine products among youth in the nordic and baltic countries*, 日付なし
- Cost of living in Iceland in 2025: Clothing, Food, Housing & More*. (n.d.). Wise. 読み込み 2025年9月9日, から <https://wise.com/gb/cost-of-living/iceland>.
- Regulations across the nordic and baltic countries—Use of nicotine products among youth in the nordic and baltic countries*, 日付なし
- European Commission (TRIS system). (2024). *Government proposal to the Parliament for an Act amending the Tobacco Act (TRIS notification No 25642)*. European Commission (Notification via TRIS). <https://technical-regulation-information-system.ec.europa.eu/sk/notification/25642/text/D/EN>.

³⁴ *Regulations across the nordic and baltic countries—Use of nicotine products among youth in the nordic and baltic countries*, 日付なし

³⁵ Pomrenke, E. (2024, 5月 23). State Alcohol and Tobacco Company to Snuff Out Snuff Production. *Iceland Review*. <https://www.icelandreview.com/news/state-alcohol-and-tobacco-company-to-snuff-out-snuff-production/>.

³⁶ Pomrenke, 2024.

³⁷ Embætti landlæknis, Viðar Jensson, & Sveinbjörn Kristjánsson, 2025.



Porritt, O. (2025). *From cigarettes to snuff to nicotine pouches: The unusual Icelandic model for tobacco harm reduction* (GSTHR Briefing Papers). Global State of Tobacco Harm Reduction. <https://gsth.org/briefing-papers/from-cigarettes-to-snuff-to-nicotine-pouches-the-unusual-icelandic-model-for-tobacco-harm-reduction/>

たばこの健康被害軽減低減をめぐる世界の状況、またはこのGSTHRブリーフィングペーパーで提起されたポイントの詳細については、info@gsth.orgにお問い合わせください。

私たちについて: **Knowledge•Action•Change (K•A•C)** は、人権に根ざした公衆衛生戦略として、有害物質の削減を推進しています。40年以上にわたり、薬物使用、HIV、喫煙、性的健康、刑務所における有害物質削減活動に携わってきた経験を持っています。K•A•Cは、**たばこの健康被害軽減低減をめぐる世界の状況 (GSTHR)**を運営し、世界200以上の国と地域におけるたばこ害軽減の発展、より安全なニコチン製品の使用、入手、規制対応、喫煙率や関連死亡率についてマップを作成しています。すべての出版物とライブデータについては、<https://gsth.org>をご覧ください。

資金調達: GSTHRプロジェクトは、米国の独立非営利団体 (501(c)(3)) である**Global Action to End Smoking** からの助成金によって制作されており、米国の法律により、寄付者から独立して運営することが義務付けられています。このプロジェクトとその成果物は、助成金契約の条件により、財団から独立しています。